# 黒木鷹踊り

昔は、上層の武士が行っていた鷹狩りを芸能化したものであり、もともとは、鷹狩りの餌食になった動物たちの霊を慰める踊りであったと言われている。

すててこ、笠、扇子、鷹を模した道具を持った鷹匠役（男）が器用に鷹を操る様子と笠と着物を身に付け、棒を持って鷹の機嫌を損ねないように餌師（女）が補助する様子を三味線や太鼓の楽曲に合わせて踊る。

保存会や地域との連携：黒木鷹踊りは３２年の歴史を持ち、数年前までは、黒木小児童だけが踊っていたが、校区の伝統芸能継承の意味を考え、１３年前に保存会を立ち上げて現在に至っている。現在小学生３～６年生１２名で活動しているが、踊りの練習は、地元保存会の永野氏を中心に中学生にも力を借りて、踊りの指導をしている。中学生が小学生へと黒木の伝統を繋ぐ形をとっている。

【奉納・披露】

日程：毎年９月第３土曜日（大楠神社鷹踊り奉納）

場所：大楠神社（祁答院町黒木）